

# 宇治支援学校×立宇治高 近くて遠かった両校 初交流

## 文化祭「興風祭」 窯業製品を共同販売

府立宇治支援学校(細矢義伸校長)と宇治市広野町丸山IIの高等部「くらし職業コース」の3年生が、立命館宇治高校(ヒックス・ジョーゼフ校長)と同町八軒谷IIの3年生3人からの呼び掛けで、同校の文化祭「興風祭」に参加。両校の生徒が共同で「宇治パトナーショップ」を開設し、窯業製品などを販売した。両校の交流は初めて。自主的に社会的課題を見つめ解決策を探る

「コア探究」授業を受けた立宇治の「宇治応援団(北村光太郎さん、池田光汰さん、吉本凌太郎さん)」が、SDGsの「17・パートナーシップ」で目標を達成しよう」に着目。「文化祭を成功させた」と、夏休みに支援学校に協力を呼び掛け

た。支援学校はこれらを共生社会の実現に向けた取り組みとして位置付け、承諾。両校生徒の交流や共同学習を実施することになった。事前に支援学校生は、客を意識した商品の陳列、梱包、レジの操作方法などを確認。立宇治生は、店を紹介するポスターや、店内を飾るポップを制作するなど、販売をサポートした。

入学の年に新型コロナウイルスの感染が拡大し、以降、イベントが次々と中止となるなど活動が大幅に制限されてきた支援学校の3年生にとっては、これが初めての校外販売。当日のブースでは「窯業」の授業で制作したコップ、皿、スプーン、豆腐すくい、そば猪口、動物型マグネット、マドラーなどをズラリと並べ、ブースを訪れた人を「いらっしやいませ!」と、明るく出迎えた。好調な売れ行きを見せていた。

支援学校生の中村和水さんは「コロナで校外での販売が今まで一度もできなかった。とても貴重な機会をいただき、感謝していました。立宇治の文化祭も体験させてもらって嬉しい。今後も交流を続けてほしい」と感激していた。このプロジェクトを企画した宇治応援団の一人、立宇治の北村さん

は「観光が目立つ宇治だが目が向けられていない部分はまだある。立宇治生にはハブを持てる人に対する理解を深めてもらいたい。今回のプロジェクトがそのきっかけになれば、今後も支援学校との交流の場を増やしていきたい」と話した。近くて遠かった両校が今後の交流の深まりへ、一歩を踏み出した。(先月22日)



支援学校生が作った窯業製品がズラリと並ぶブース



共同でブースを運営した支援学校生と立宇治生

田中住研 0943-33-0001 (内線)